



No. 82

# The University of Tokyo Forests News 科学の森ニュース

June 10, 2018

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

## 演習林長新任の挨拶

演習林長 福田健二

今年度から3年間、演習林長をつとめることになりました。私自身、学部学生時代から現在に至るまで、演習林を利用しなかった年はありません。現在の勤務先である森林植物学研究室でも、前職の新領域創成科学研究科でも、学生実習や研究フィールドとして演習林をたびたび利用させていただいてきましたが、そのたびに実感するのは、演習林の整備された林道や、教員や技術職員による手厚いサポート体制のありがたさです。東大演習林は、森林科学専攻



や生圏システム学専攻の実習はもとより、他研究科や他大学の研究教育にも頻繁に利用されていますが、それはこうした万全のサポートがあればこそです。もちろん演習林スタッフ自身による優れた研究も行われていますし、長期間にわたる固定試験地の観測も演習林を特色づける非常に重要な活動です。そして何よりも、長期にわたり持続的な森林管理と木材生産を実践してきた森林そのものに今日的な価値があります。定員削減や予算削減によって演習林の管理運営にも厳しさは増すばかりですが、SDGs（持続可能な開発目標）が注目されている昨今、持続可能な社会の構築に向けた研究教育のフィールドとして、大きな役割を果たしていきたいと思えます。ご支援のほどよろしく願いいたします。

## 森林計画研究発表大会で ユーカリ試験地の成果を発表しました

樹芸研究所

2018年2月1日(木)～2日(金)、東京大学弥生講堂にて開催された第65回森林計画研究発表大会において、株式会社いしい林業(南伊豆町)と樹芸研究所で共同研究をしているユーカリの造林試験についての成果発表を行いました。シカの森林への影響が深刻化している南伊豆町のいしい林業社有林に造成したユーカリ試験地において、植栽後2年8ヶ月の *Eucalyptus saligna* (以下、サリグナ) は平均樹高 8.8 m、生存率 85% を記録しました。サリグナをはじめとしたユーカリ属数種はシカ食害が著しい地域で林業再生を考える上で、有力な候補となると考えています。



発表者の村瀬一隆氏(左: 樹芸研究所)と森 広志氏(右: いしい林業)

## シンポジウム「気持ちよく納められる 森林環境税とは」開催

企画部

2018年3月1日(木)、国の制度として導入されようとしている森林環境税についてのシンポジウムを弥生講堂一条ホールにて、演習林企画部主催、NPO 法人の木共催により行い、130名の方にご参加いただきました。37府県で実際に運用されている森林環境税によって現場で何が起きているのか、市民・納税者の立場、山の現場で仕事をしている立場の方々からご講演いただいた後、森林研究者の立場から安村講師が講演しました。蔵治教授がコーディネーターを務めたパネルディス

カッションでは行政担当者もパネラーに加わっていただき議論を深めました。



ディスカッションの5名のパネリストと参加者の質疑応答

## 演習林所属の五十嵐慶一さんが 研究科長賞を受賞

教育研究センター

2018年3月22日(木)、研究科長賞の授賞式が行われました。研究科長賞は各専攻で顕著な研究業績を挙げた大学院生に贈られる賞で、生圏システム学専攻修士課程では演習林所属の五十嵐慶一さんが受賞しました。修士論文のテーマは、「気候変動と土地利用変化が洪水流量に及ぼす影響の予測—タイ北部 Nan 県 Song Khwae 郡を事例として—」で、タイ政府とのやり取り、現地調査、モデルを用いた解析などを通じて、世界的な課題に取り組む姿が高く評価されました。五十嵐さんは4月から民間のシンクタンクに就職し、国際的な仕事に携わるとのことです。五十嵐さんの今後の活躍に期待しています。



研究科長賞を授与された五十嵐さん

「ナラ枯れ」(正式名称「ブナ科樹木萎凋病」)は、カシノナガキクイムシが穿入し *Raffaelea quercivora* という菌(通称「ナラ菌」)を樹体内に持ち込むことで発生します。菌の病原力は強くはありませんが、カシノナガキクイムシが大量に穿入することで枯死に至ります。被害はブナ亜科以外の多くのブナ科樹木にみられます。江戸時代の古文書から昔から発生していたと推測されていますが、カシノナガキクイムシによる被害として最初に記録されたのは1934年に宮崎で主にシイ・カシ類で発生した被害です。その後、各地で局地的な発生と終息を繰り返してきましたが、1988年に滋賀県北部で発生した被害は終息することなく全国的に同時多発的な発生と拡大を続け、現在に至っています。流行の主な原因は、薪炭林施業が行われなくなったことによるナラ林やシイ・カシ林の高齢化と考えられています。

東京大学演習林では2007年に生態水文学研究所で主にコナラに発生したのが最初で、次いで樹芸研究所で2013年に同じくコナラが主体の被害が発生しました。そして2017年には千葉演習林でマテバシイ主体の被害が発見されました(2016年には発生と推測)。千葉演習林での被害は樹種の違いのため全身枯れもありますが、多くは枝枯れにとどまっています。これまでに様々な防除法が検討されていますが、広域の被害を防ぐことは難しいことから、演習林としては演習林内の施設や演習林外部の人家、道路などに危険を及ぼす可能性のある枯死木を処理することになっています。



枝枯れを起こした  
マテバシイ幹表面の穿入孔(千葉演習林)

### 演習林のイベント情報 詳細はホームページをご覧ください、各地方演習林にお問い合わせください。

#### [6月]

- 2-3日 総合科目「森林環境資源学」(ダムと森林) ☆(生水研)
- 2-3日 全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」 ☆(秩父)
- 3日 全学体験ゼミナール「都市の緑のインタープリター養成」 ☆(田無)
- 3日 第32回子ども樹木博士認定会(田無)
- 3日 休日公開(田無)
- 9-10日 総合科目「森林環境資源学」(森の最終形) ☆(千葉)
- 10日 とよた森林学校「森林セミナー」(生水研)
- 11日 利用者交流会 ◆(田無)
- 13日 ガイドツアー「演習林の試験地見学ー亜高山編ー」(秩父)
- 16-17日 総合科目「森林環境資源学」(森と癒し) ☆(富士)
- 17日 シデコブシの会「巣箱周辺のコケ調査」 ◆(生水研)
- 23-24日 全学体験ゼミナール「人の手で造り管理する森林」 ☆(生水研)
- 24日 公開セミナー(北海道)
- 29日~7月1日 全学体験ゼミナール「癒しの森と地域社会(夏)」 ☆(富士)

#### [7月]

- 7-8日 全学体験ゼミナール「君はスギ・ヒノキのことを  
本当に知っているのか? (入門編)」 ☆(千葉)
- 10日 大麓山ハイキング登山会(北海道)
- 29日 シデコブシの会「巣箱内巣材調査」 ◆(生水研)

#### 31日~8月2日 高校生のための森と海のゼミナール

- ~大学の先生と考える環境問題と生物多様性~ ◆(千葉)
- 未定 附属中等教育学校生物部「夏季生物教室」 ◆(千葉)

#### [8月]

- 1-4日 全学体験ゼミナール「森に学ぶ(ふらの)」 ☆(北海道)
- 2日 東大農場・演習林子どもサマースクール(田無)
- 5-6日 公開講座「東大の森林で昆虫採集」(秩父)
- 19日 シデコブシの会「夏休み水生生物観察会」(生水研)
- 27-30日 造園学会中部支部サマースタジオ ◆(生水研)
- 28-31日 全学体験ゼミナール  
「フィールドで考える野生動物の保護管理」 ☆(千葉)
- 未定 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ(夏)1」 ☆(樹芸)
- 未定 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ(夏)2」 ☆(樹芸)
- 未定 体験活動プログラム「演習林の教育研究を支えよう!  
~日本最初の大学演習林で体験する3つの緑の下~」 ☆千葉
- 未定 千葉演習林ボランティア会 Abies「除草作業」 ◆千葉
- 未定 君津市スクールミュージアム 坂畑小学校「職員研修」 ◆(千葉)

凡例…無印:一般向け ☆:学生向け ◆:その他

## 科学の森の動植物紹介

ヤマトグサ

アカネ科 ヤマトグサ属

学名：*Theligonum japonica* Okubo et Makino

千葉演習林

ヤマトグサはアカネ科ヤマトグサ属に分類される多年草です。以前はヤマトグサ科として独立した科に分類されていました。日本固有種で国内にはヤマトグサ1種が分布します。本種は1887（明治20）年に牧野富太郎らによって植物学雑誌に記載論文が発表され、日本人によって日本の雑誌で発表され新種記載された初めての植物として知られています。千葉県レッドデータブック2017年改定版では重要保護生物に指定されています。千葉演習林では4月下旬から5月上旬にかけて目立たない雄花と雌花を咲かせます。



ヤマトグサ  
※左上は雄花

## 名所 名物案内

### 松野礪記念碑

千葉演習林

日本林学の生みの親といわれている松野礪（まつの はざま）は、1870（明治3）年から1875（明治8）年にかけてドイツに留学し、日本人で初めて近代的な林学を学びました。帰国後内務省に奉職し山林行政に携わると、山林行政の基礎を作るには林業の人材を養成する必要があると訴え、専門の教育機関設立に奔走しました。その甲斐あって、1882（明治15）年には、東京山林学校（現在の森林科学専攻の前身）が開校することになりました。その後、松野礪は東京山林学校、東京農林学校、帝国大学（農科大学）で教授として林業教育に尽力しました。

これらの功績を称え、1909（明治42）年に門下生の川瀬善太郎、白沢保美らによって記念碑が建てられました。建立場所は千葉演習林の南側に位置する尾根上にあり、沿線の県道81号線から石碑を望むことができます。

石碑の碑面は宮亀年が刻字しました。宮亀年は刻字の技術において名工と称された人物です。碑面の拓本は千葉演習林の森林博物資料館に展示してあります。資料館公開時にぜひご覧ください。



松野礪記念碑

科学の森ニュース（The University of Tokyo Forests News）

第82号（No. 82）

発行日 平成30年6月10日

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1

発行人 福田 健二

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林広報情報委員会

編集人 後藤 晋

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2017@uf.a.u-tokyo.ac.jp